

## 5 ピーマン品種比較試験

### (参考調査) 白黒マルチ効果確認調査

#### 背景と目的

市内では「みおぎ」が基幹品種として栽培されていますが、夏期の尻腐れ果の多発が大きな問題となっています。このため、尻腐れに強いとされる品種との比較試験と、地温抑制による尻腐れ果の軽減対策について、府県の果菜類栽培で一般的になりつつある白黒マルチ栽培を用いて検討を行いました。

関係先 旭川青果物生産出荷協議会ピーマン部会

#### 試験区設定

##### 1 品種比較試験

供試品種：みおぎ（園研）、京みどり、京波（タキイ種苗）、ピクシー（横浜植木）

##### 2 白黒マルチ調査（品種：みおぎ）

白黒区：定植時より白黒ダブルマルチを敷いた区

慣行区：定植時よりグリーンマルチを敷いた区

#### 試験結果

##### 1 品種比較試験

###### (1) 収量・品質（表1）

収量性では、標準品種であるみおぎがもっとも優れていました。草勢低下のため、8月に切り戻しを行ったことから、いずれの品種においても尻腐れ果の発生が少なく、ピクシーでは発生がみられませんでした。

表1 収量調査

	総収量 (kg/10a)	良果収量 (kg/10a)	不良果収量(kg/10a)			良果割合 (%)	良果1果重 (g)
			計	規格外	尻腐果		
みおぎ	9,857	8,818	1,039	765	68	89.5	34.3
京みどり	7,265	6,218	1,047	651	141	85.6	32.0
京波	9,345	8,601	743	550	37	92.0	32.9
ピクシー	8,917	8,212	705	429	-	92.1	32.7

###### (2) 品種の特徴

ア みおぎ（図1：30g±1gの果実の写真です。以下同じ。）

- ・果肉が薄く、柔らかい品種です。
- ・食味は苦みが少ない。

イ 京みどり（図2）

- ・収量が低く、尻腐れ果の発生がみおぎより多くなりました。

- ・果肉が薄く果形が長いため、見た目の大きさに優れています。
- ・柔らかく、苦みが少ない食味です。

#### ウ 京波 (図3)

- ・収量はみおぎに次いで高くなりました。
- ・果肉はみおぎよりやや厚く、果形はベル型に近い品種です。
- ・食味はみおぎよりも苦みがやや強いです。

#### エ ピクシー (図4)

- ・尻腐れ果は、ほぼ見られませんでした。
- ・果肉が厚く、果長が短いため、同じ重さの果実と比べると小さく見えます。
- ・苦みはあまり感じられず、食味が良い品種です。



図1 みおぎ



図2 京みどり



図3 京波



図4 ピクシー

## 2 白黒マルチ調査

ピーマンの定植適温とされる地温 15℃には、マルチを敷いた後慣行区では3日目、白黒区では7日目に達しましたが、定植から収穫開始時までの平均地温では白黒区は慣行区に比べ2℃ほど低い結果となりました。また、白黒区は収量が低く、尻腐れ果の発生も慣行区より多くなりました。このことから、当地では定植時から白黒マルチを使うのはピーマンには適さないと判断しました。